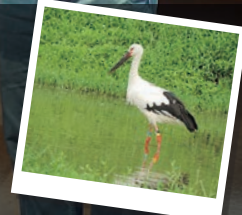




Profile | 北垣 和也 氏

1980年兵庫県生まれ、人間学部社会学科(現社会学部社会学科)卒。2級ピオトーブ施工管理士、生物分類技能検定2級(動物部門)、学芸員資格取得。専門分野は鳥類。兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科在学中。



取材を終えて

大学での人との出会いが今の自分を作っているという話をお聞きし、普段意識していなかった人との繋がりを大切にしようと思いました。大学生の今だからこそ興味を持ったことには自分から挑戦していこうと思います。

経済学部 経済学科 2年
野口 佳純さん

追手門学院大学の卒業生を訪ねて

[interview : 野口 佳純]

第34期
卒業生

豊岡市立コウノトリ文化館 自然解説員

(NPO法人コウノトリ市民研究所)

北垣 和也 氏

野口◎お仕事の内容をお聞かせください。

北垣◎館内業務としては、お客様へのコウノトリに関する説明、質問への対応や展示物の入れ替えなど。館外では「田んぼの学校」という子どもたち向けの環境学習や出張講座のほか、豊岡周辺の生物調査も行っています。担当は魚類で淡水魚を調べています。

野口◎仕事のやりがいは何ですか。

北垣◎絶滅したコウノトリを野生復帰させる目的に共感していただけたときや、調査では希少な種の魚を見つけたときですね。あとは「田んぼの学校」で、子どもも親も我を忘れて遊んでいる姿を見ることがです。

野口◎大学院での研究テーマは何ですか。

北垣◎円山川の汽水域(海水と淡水の混在地点)の魚類群集の構造や、稚魚がどこで生育・再生産されるのかについて研究しています。

野口◎コウノトリも研究対象ですか。

北垣◎私の研究対象は魚類ですが、関連はあります。コウノトリは植物を食べない肉食の鳥で、ザリガニや魚など淡水に棲む生物も食べます。餌になる生き物がいるかどうかは大きな問題ですから、私の研究を通じて生息に適した環境かどうかはわかります。

野口◎仕事や研究でのご苦労は何ですか。

北垣◎最近海外のお客様が多いので、英語の大切さを痛感しています。独学で勉強して対応しています。もう一つは、仕事と大学院を両立させることです。

野口◎外国の方は何に興味を持っていますか。

北垣◎一度絶滅した生き物を復活させ、人間と共存するという取り組みに関心を持っています。とくに欧州のお客様は環境に対する意識が高いと感じています。

野口◎追大で良かったと思うことは何ですか。

北垣◎友人はもちろん、蜘蛛の研究をされていた西川喜朗先生との出会いなど、貴重な人の繋がりができたことです。また、矢谷慈國先生の「人間も自然の一部。切り離して考えてはいけない」という言葉は、今も私の自然と人間に対する認識の基礎になっています。

野口◎今後の目標を教えてください。

北垣◎人間とコウノトリの共生を進めるまちづくりというのは、全国的にも例がありません。コウノトリだけが注目されがちですが、我々がよく言うのはコウノトリ「が」ではなく「も」。コウノトリが生息できることは、多様な生物が生きられる環境を意味します。コウノトリも人間も魚も虫も、一緒に住めることが大切なのです。豊岡の人間として、地域の方に自然を大切にすることを意識していただけるように、環境に関するデータをしっかり残していきたいと思います。

野口◎後輩へのメッセージをお願いします。

北垣◎大学生の時間があるときに見聞を広めてほしいと思います。私は大学時代「青春18きっぷ」で全国を旅し、その経験が自分の引き出しになっています。大学生時代にしかできない体験をすることをお勧めします。

人間とコウノトリが共生できるまちづくりに役立っていききたい

編集後記

今号からBridgeの制作に参加し、初めて取材というものを経験しました。日常ではお会いする機会のない方々のお話を聞くことができ、自分の中に新しい価値観が生まれることを実感。視野や知見を広げることにも繋がるので、興味のある人はぜひBridge会議に足を運んでみてください!!(兵庫 沙耶花)

学生企画広報スタッフ

古賀 千晴 [心理学部 4年]
弓倉 健吾 [経済学部 4年]
改井 孝太郎 [経営学部 3年]
西井 亮 [国際教養学部 3年]
弘山 彰 [地域創造学部 3年]
山本 隼平 [経営学部 3年]

松本 卓朗 [経営学部 3年]
岩田 悠輝 [経済学部 2年]
吉原 久美 [地域創造学部 2年]
安原 杏奈 [地域創造学部 2年]
野口 佳純 [経済学部 2年]
池田 彰乃 [社会学部 2年]

飯谷 優花 [経営学部 2年]
兵庫 沙耶花 [経営学部 2年]
永松 雄太 [経済学部 2年]
関谷 明知佳 [社会学部 1年]

その場ですぐに結果がわかる Bridgeアンケートに答えよう!

アンケートの結果がその場で見られるので、みんなの気持ちがよくわかる!今回は新キャンパス、あなたが打ち込んでいること、ピアス・イヤリングについての設問です。ぜひお答えください。



「BRIDGE」制作メンバー[学生企画広報スタッフ]1・2年生 大募集中!

当マガジン「BRIDGE」を一緒に作ってみませんか? 興味のある人は気軽に見学しに来てください!

●見学の申し込み・お問い合わせ/1号館2F 総務室 広報課[担当: 足立/楠生] (または下記メールアドレスにご連絡ください)

[スタッフ会議] 毎週木曜日/12:40~14:30頃まで(昼休み限定の参加もOK・他団体所属の学生も歓迎します)

※メールでの応募・お問い合わせはこちらまで ▶ koho@otemon.ac.jp [担当: 足立/楠生]

QRコードから
メールを送り
いただけます▶



Bridge OTEMON GAKUIN UNIVERSITY VOL.13

発行日/2018年10月1日 発行/追手門学院 総務室広報課・学生企画広報スタッフ 〒556-0008 大阪府茨木市西宮蔵-1-15 TEL:072-641-9590/FAX:072-641-9645 編集協力/株式会社コーポレーション
[通巻51号] ※1999年6月15日創刊(当時の誌名はOTEMON PRESS)。2012年10月よりBRIDGEへと誌名変更。

Take Free
ご自由にお持ち帰りください

Bridge

学生・教員・職員のためのインタラクティブ・マガジン
[ブリッジ]



vol. 13

SPECIAL FEATURE

特集: 新キャンパスここが知りたい!

待望の新キャンパス! すべての追大生にとっての新拠点を徹底解剖!

連載: 社会へのBridge [卒業生×在学生]

Vol.07 | 北垣 和也 氏 [豊岡市立コウノトリ文化館 自然解説員]

連載: 「想像もしなかった自分史」を始めた学生の肖像

Vol.08 | 心理学部 心理学科 4年 木佐 凌一朗さん [よしもとクリエイティブ・エージェンシー 所属]



想像もしなかった自分史がはじまる

追手門学院大学



現代未聞 追手門
130年の伝統を革新の力に



新キャンパス ココが矢張り面白い!

[interview : 西井 亮 / 山本 準平 / 古賀 千晴]

待望の新キャンパスが、完成のさなかにあります。

対象となる地域創造学部と国際教養学部、

全学部1年次生だけではなく、すべての追大生にとっての新しい拠点。

2019年4月、追大生の学校生活が大きく変わります。



Bridgeアンケート

その場で結果がわかる
アンケートに答えよう!

Check!



Q1 新キャンパスの楽しみなところは?



INTERVIEW | 新キャンパスについて教えてください!



理事長・学長
川原 俊明 先生

自由な発想で、学生の 主体的な学びを促す環境

新キャンパスは、学生の成長を全面的に後押しするための器づくりとして設置を進めました。建物全体に、いつでもどこでも自由な発想で学べる仕掛けが数多く設けられており、主体的な学習と学生同士の学びあいを実現する環境を用意しています。駅に近く、これまでのようにバスの時間を気にすることなく長時間過ごせるのも特長です。これを機に追大は、教育体制の劇的な転換を図ります。ともに新しいチャレンジを始めましょう。



アーキテクト(設計者)
須部 恭浩 氏

(株)三菱地所設計チーフアーキテクト。一級建築士。本学安威キャンパスの1号館、中央棟・6号館などの主任設計者も務めた。最近の作品に2018年11月開業の台湾「台北南山廣場」などがある。受賞歴多数。

授業の合間も放課後も 賑わいのある空間に

新キャンパスの設計にあたり、まず考えたのが賑わいづくりです。逆三角錐の1棟づくりの学舎は、人の分散を避け、授業の合間や放課後でも賑わいが続く一つの大きな家をイメージしたものです。学内の施設設備にも様々な工夫を施して、対話型、参加型の学びが生じるような仕組みでいます。同時に、使い方次第でどんな風にでも変化できる空間になっています。自在に変化させながら、追大さんらしいキャンパスに育んでほしいと思います。

NEW CAMPUS

01

OVERVIEW

一辺130メートルの巨大な逆三角錐 その名は、Academic Ark

新キャンパスの学舎は、巨大な逆三角錐という斬新なデザイン。学院創立130周年にちなんで一辺130メートルの巨大な建物は、Academic Ark(アカデミックアーク)と名付けられました。モットーは「学びあい、教えあい」。学部ごとの複数棟ではなく大きな1棟に集約することで、異なる学部の学生、教職員、地域の方々が混ざり合う、独自の賑わいを創出。この大きな船のもと皆が一体となり、そのつながりの中で成長を遂げていきます。

NEW CAMPUS

02

OVERVIEW

学舎は三角形。他に例のないデザイン その原点はおむすびだった?

ビルのような四角形の学舎はよく見られます。スポーツアリーナのような丸形の建築物も珍しくありません。しかし、三角形のデザインは他に例を見ないといえます。アイディアの原点となったのは、なんと“おむすび”。日本オリジナルの形を模索する中で得られた着想でした。おいしいおむすびは人を笑顔にし、賑わいをつくり出すという意図も込められています。そして、おむすびに欠かせない具にあたるもの——それが図書館です。

NEW CAMPUS

03

OVERVIEW

私語禁止の図書館はもう古い 読書も、議論も、待ち合わせも

新学舎の動線の中心をなすのが図書館。3階と3.5階の二層構造になっており、静かに図書を閲覧したり自習をしたりするスペースだけではなく、グループ学習や議論もできるほか、待ち合わせに適した場所もあり、学生同士のつながりをつくる斬新なコンセプト。授業の合間や放課後など、多目的に利用できます。図書館のほか廊下にもふんだんに書棚を配置しますので、絶えず図書に触れる環境となり、まさに全体が図書館といえる学舎です。

NEW CAMPUS

04

OVERVIEW

いつでもどこでも話せる、書ける、 投影できる自由自在な教室

追大は「授業は教室」という固定観念をくつがえします。一般に縦長のつくりとなる教室を横長に設計し、学生と教員の距離を一層縮めるとともに、可動式の構造を採用。柔軟に形を変えながらアクティブラーニングやグループワークに取り組めるなど、一般的な教室の概念を解体します。すべての教室に全面ホワイトボードを設置し、いつでもどこでも書ける、投影できる対話型の授業を促進。これら設備が「学びあい、教えあい」を具現化します。

NEW CAMPUS

05

OVERVIEW

芝生のスカイガーデンで 何をするかは学生の発想次第

屋上(スカイガーデン)は多目的な使い方ができます。芝生を敷き詰めた広大な屋上広場を中心に、周囲にはひさしのある廊下にテーブルを配置。自習や待ち合わせなどに使うことができます。屋内はたくさんの小教室と中教室で構成されます。屋上の活用方法は学生次第。天気の良い日は屋上広場の芝生で、雨天の日でもひさしの下で、何らかのアクティビティーができます。皆さんのアイデアで、屋上の賑わいをつくり出してください。



NEW CAMPUS

06

OVERVIEW

パソコンを全学生が携行 時間や空間にとらわれない学びを

新キャンパスでは新入生から全学生がパソコンを携行、いずれ全学年に広がっていきます。実社会を想定するとキーボード操作に習熟する必要があるため、タブレット型ではなくパソコンとします。ICT機器の活用により、1コマ90分の枠組みや教室にしばられることなく、授業の合間や放課後などに予習、復習に勤しめる状況をつくります。全面ホワイトボードの環境を活かして、その場でプレゼンテーションというスタイルも定着するでしょう。

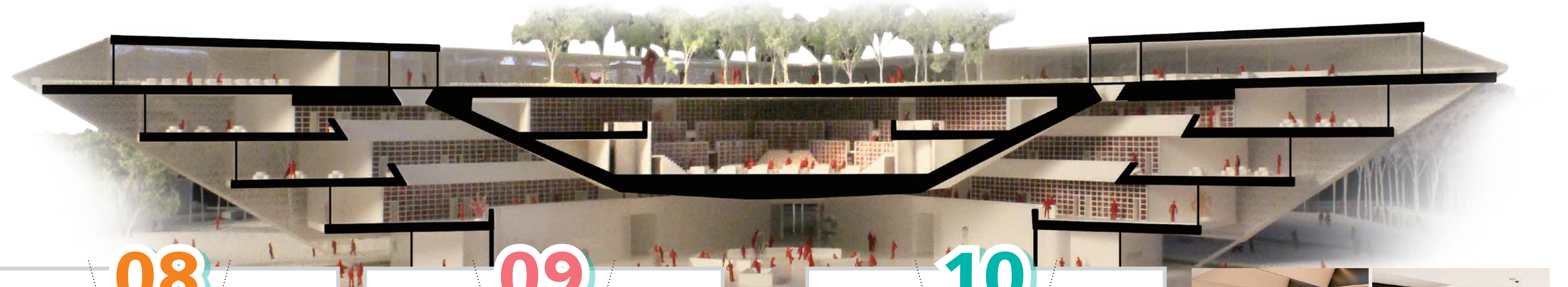
NEW CAMPUS

07

OVERVIEW

安威キャンパスからバスですぐ 2つのキャンパスが追大生のフィールドに

安威キャンパスとは直線でわずか2キロの距離。2つのキャンパスはシャトルバスで結ばれます。たとえば安威キャンパスの授業終了後に新キャンパスで放課後を過ごすという使い方も。一方、新キャンパスの学生も部活などでグラウンドを使用する場合は安威キャンパスに向かいます。学部・学年に関係なく、全追大生にとって2つのキャンパスは自由に使い分けられる自分のフィールドです。



NEW CAMPUS

08

OVERVIEW

塀のない開かれたキャンパス 大学が地域のデートスポットに?

100本以上の桜で構成されるサクラウォークを配置するなど、新ランドスケープ(景観)的な美しさも追求。夜間にはライトアップも行いますので、地域社会の行灯(あんどん)のような空間となることでしょう。塀のない開放的なキャンパス。デートスポット、インスタ映えスポット、さらには地域のイベント会場としての活用も見込まれます。有事の際には、地域社会の防災拠点として機能することも十分に配慮した設計になっています。

NEW CAMPUS

09

OVERVIEW

近隣に大型商業施設が開業 自然や歴史文化も身近にある環境

新キャンパスが設置される地域は「スマートコミュニティ構想」というまちづくりが進められており、キャンパスのすぐ近くに大型商業施設の開業が予定されているなど、今後発展が期待されるエリアです。その中で本学は知の拠点として地域社会の発展に貢献するとともに、様々な地域連携を通じて学生の成長を促していきます。周辺環境も魅力。近隣には古墳や神社、緑豊かな深谷もあり、キャンパスの外にも居心地のいい場所を見いだせます。

NEW CAMPUS

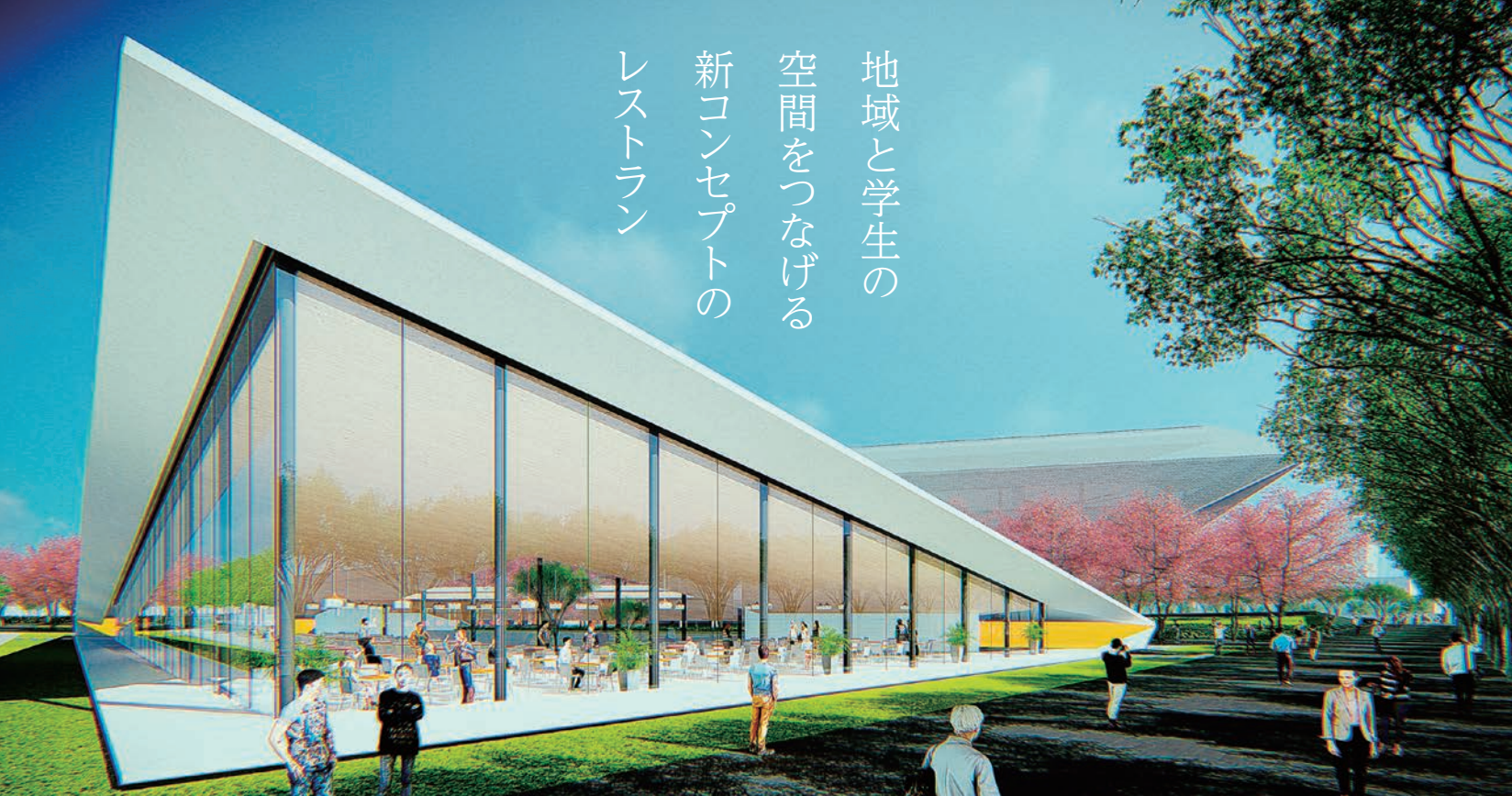
10

OVERVIEW

行動して学び、学びながら行動する 「WIL」を一層加速させる

追大では「WIL : Work Is Learning」をコンセプトに「行動して学び、学びながら行動する」ためのプログラムとして、インターンシップやフィールドワーク、リーダー養成コースなど正課内外で多彩なプログラムを実施してきました。新キャンパスではその流れを一層加速。拠点としてAcademic Ark1階に「WIL Studio」「WIL Hall」を整備し、産学連携のほかオープンキャンパスなどの様々な学内業務に従事する機会を数多く提供していきます。





NEW RESTAURANT

新食堂棟をプロデュースするのは追大卒業生で、学院名誉フェローの藤尾政弘氏。施設の概略をうかがいました。

[interview : 兵庫 沙耶花 / 阪谷 優花 / 古賀 千晴]



このたび新キャンパスの食堂棟をプロデュースするにあたり、改めて学食について勉強するため、様々な大学を視察して回りました。実際に自分の目で確かめると、概して雰囲気はおしゃれになっていますが、キッチンがクローズで、メニューは揚げ物主体という業態が相変わらず続いていました。何より感じたのは、料理をつくる工程が単なる作業になっていたことです。新食堂棟では、これらをすべて変えていきます。重視し

たのは手づくり感。ご飯はかまど炊きで、精米機も設置します。料理だけではなく、オープンキッチンにしてスタッフの働く姿を開放し、音、におい、空気、スタッフの笑顔、すべてが商品となる、広い意味での手づくり感があふれる学食をつくります。

内装は落ち着いた和のテイストに仕上げます。外観が洋風建築ですので、和洋折衷の施設となりますが、メニューも和と洋を織り交ぜた構成となります。当社では現在40業態(収録時)を展開していますので、そのノウハウを凝縮したメニューを企画しています。学生さんの提案がメニューに反映され

ることもあるのではないのでしょうか。我々の外食産業は提案商売。だから提案は大歓迎です。一緒にメニューを開発していくことも、手づくり感につながるはず。

新食堂棟を立ち上げるにあたり、学院側から具体的な要望は何もありませんでした。「いいものをつくってください」の一言だけです。全面的に任せていただいたぶん、余計にいい食堂をつくらうという思いを強くしています。追大を卒業しておよそ40年が経ちますが、母校に対する愛着は変わりません。どの大学にも負けない学食をつくります。どうかご期待ください。

株式会社フジオフードシステム
代表取締役社長

藤尾 政弘氏

1955年大阪市生まれ。1977年追手門学院大学経済学部卒(8期生)。学校法人追手門学院理事・評議員。「まいどおきに食堂」「串家物語」「かつぼうぎ」「つるまる」のメインブランドを中心に全国展開。海外にも数多く出店する。



現代未聞 追手門
130年の伝統を革新の力に

追手門学院 創立130周年 記念式典

場所: 大阪城ホール

日時: 2018年 11月7日(水)

11:30開場 / 13:30式典開始

130th Anniversary OTEMON GAKUIN

進化し続ける追手門学院の 歴史に立ち会おう! 在学生はぜひご参加を。

学院創立130周年記念式典の開催日が近づいてきました。式典に先駆けて行われる「企業展示」では各業界で活躍する先輩たちと交流。「教育展示」では大学の全学部と基盤教育機構、中・高、大手前中・高、小学校、こども園の学院すべてにおける今後の取り組みを発信します。「記念式典」では盛りだくさんのイベント(下記)を通じて、130年の歩みを振り返ると同時に、未来への飛躍をオール追手門で誓い合います。この歴史的な式典に、在学生の皆さんもぜひご参加ください。

追手門学院と自分の未来に触れる1日

【企業展示】
11:30~(2Fコンコース)

卒業生の企業・
新キャンパス関連企業に
会いに行こう!

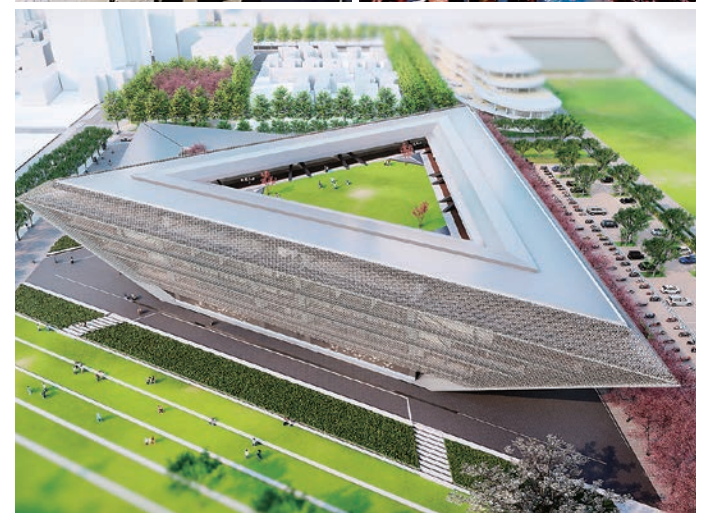
【教育展示】
12:00~13:00(アリーナ)

各学部の教育に触れよう!

【130周年
記念式典】
13:30~15:00

- ウェルカム・プレゼンテーション(展示会)
- 追手門学院の歴史映像
- 小学生による日本太鼓パフォーマンス
- 吹奏楽・チャリダーによるパフォーマンス
- 理事長あいさつ
- 新教育紹介(メッセージ映像・新キャンパス映像)
- 幼小中高大によるパレード
- 学院歌斉唱

など





僕にはお笑いしかない。
やめるときは、死ぬとき。



心理学部 心理学科 4年
[よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属]
Ryoichiro Kisa
木佐 凌一朗さん

漫才コンビ「いなかのくるま」で活躍中

高校時代に「書評漫オグランプリ in OSAKA」で準優勝を収め、続いて現在の「いなかのくるま」で相方を務めるちろるさんとともに「ハイスchoolマンザイ」優勝。その後劇場オーディションに合格し、プロ芸人となった木佐さん。お笑い芸人と大学生の二足のわらじを履き続けてきました。その生活は多忙を極めています。授業が終わると駆け足で劇場へ。仕事をして終電で帰宅。睡眠時間は4時間程度というハードな毎日です。最近ではテレビでの露出も徐々に増え、街で声をかけられることも少なくないとか。「もっと女の子にもてると思っていたのに、そこは全然だめです。この前なんか中高生が『あっ、木佐や、木佐や』って言いながら近づいてきて、『なんでタメ語やね

ん』って突っ込んだきましたけど。僕程度の芸人でも私生活が不便なのに、もっと売れている先輩方は大変やろうなと思います」。

私生活までも犠牲にして続けてきた芸人の仕事。それだけやりがいがあるのかと思えば、「仕事の魅力？ わかりませんね。楽しいと感じたことないですから」。木佐さんは、いくら笑いをとつても「細かいミスがあった」「もっとできたはず」などと、常に自らの芸を厳しく振り返ります。350人もの集客があった単独ライブを成功させたときも「満足はしなかった」と言います。新作の仕込みを含め、準備に要した期間は2カ月。満席の会場は笑いの渦に包まれました。それでも「達成感はなかったし、夜はそのままソファーに倒れ込みました。満足することなく、この道を追求していくことしか考えられません」。



自分史上、
想像以上！

「想像もしなかった自分史」を
始めた学生の肖像

Vol.08

[interview：兵庫 沙耶花／飯谷 優花]

目指すは「ビッグな芸人」

昨年のこと。超売れっ子漫才コンビ3組による全国ツアーの大阪公演に招かれた「いなかのくるま」。観客数1000人の大舞台で会場を沸かせ、終演後はトップ芸人である3組の先輩たちに賞讃されました。「打ち上げにまで連れて行っていただきました。お褒めに預かって嬉しいのですが、たとえ大御所に褒められたネタでも、舞台でうける保障はない。そんなジレンマが常にあります」。お笑い、リアルタイムで会場を沸かせなければならない。他ジャンルにない特殊性といえます。芸に対する評価がその場で下される厳しい世界。それでも木佐さんは、卒業後も芸人をやり続けます。「ほかにできることがないんです。僕にはこれしかない。やめるときは、死ぬときです。こ

こ、太字で書いてもらえますか?」。

将来の目標は「ビッグな芸人になることです。テレビ番組に出るのは絶対条件。雑誌にコラムを持ちたいし、本も出したい」。でもその前にやりたい“仕事”があるそうで、「追大の学費を本気で取り戻してやろうと考えています。今取り戻せたのは、笑学研究所のユーモアスピーチコンテストでの優勝賞金などまだ微々たる金額。学祭、呼んでもらえます?」と、取材の場で拔かりなく営業する木佐さん。

「舞台には頻繁に出ていますが、ライブも観に来てほしいですね。『チケットよしもと』や僕のTwitter、インスタでも広報していますので、よろしくお願いします」。二足のわらじはもうすぐ卒業。お笑い芸人・木佐凌一朗がビッグになっていく過程に注目しましょう。

藤原 直樹

准教授

地域創造学部 地域創造学科

N A O K I F U J I W A R A

[interview：改井 孝太郎／兵庫 沙耶花]



大阪府生まれ。大阪市立大学卒業後、家電メーカー勤務を経て地方自治体職員に。大阪市立大学創造都市研究科修士課程(現都市経営研究科)、同経営学研究科博士課程を修了(商学博士)。2017年4月より現職。担当講義は地方行政論、地方公務員論、地域政策論、自治体政策論、地域社会論。著書に「グローバル化時代の地方自治体産業政策」(追手門学院大学出版会)がある。

自治体の海外プロモーションを担当

前職は地方自治体職員。海外プロモーション担当として、世界と大阪をつなぐ仕事に奔走していました。「非常に面白かった」と振り返る当時の仕事内容は、大阪への海外企業の誘致や、地元中小企業の海外におけるPR活動支援のほか、市長や議員の海外出張に同行する際には分刻みの綿密なスケジュールを立てたり、英語のスピーチ原稿を作成したり、さらにはホテル、交通機関の手配なども行うロジといわれる業務にも携わっていました。

小学校の卒業文集に綴った将来の夢は「公務員」。それでも大学卒業後は、ESS部で鍛えた英語力を活かしたいと考え、迷った末に合格していた公務員を辞退して大手家電メーカーに就職。その後当初の目標通り公務員に転職します。自治体の海外プロモーションの仕事をするなか、この分野についてもっと勉強したいと考えるようになり大学院に入学。仕事と並行しながら行政経

ローカルとグローバルをつないで地域を活性化。

営の研究に励んだことで、研究者としてのキャリアを拓きます。仕事と学問を両立させ修士号、博士号を取得するために、10年間もの歳月を費やしました。

「民間企業と公務員の現場を経験していますから、実務と学問の橋渡しを意識した研究を行っています。このことを自分の職歴になぞらえて“一人産官学連携”と称しています」。

学生時代は「ぜひ旅行してほしい」

藤原先生の主たる研究テーマは自治体の国際戦略です。たとえばシンガポールが淡路島ほどの面積しかないにもかかわらず、アジアのビジネスハブとして存在感を高めている。そこには周知な国際戦略があるのです。

「地域活性化には人口を増やすか、一人あたりの所得を増やすか、大きく二通りの方法があります。人口については定住人口を増やすか、交流人口(訪問者数)を増やすかです。しかし少子高齢化が進む今、住む人を増やすのは難しい。現在では交流人口の増加を図るため、海外への発信を強める自治体が多くなっています。追手門学院大学出版会から出していたいただいた著作にも書きましたが、僕の研究はローカルとグローバルをつなぐことで、地域が活性化していく方法を探ることです」。

様々な自治体の国際プロモーションの実例を知るため、藤原先生は全国各地、ときには海外にも足を運んでいます。直近の出張予定地をうかがうと、たちどころにいくつもの都市名を列挙されました。

「現場に出向いて話を聞いてくるのは、一番得意とするところ。数式のモデルをつくるような研究は僕にはできないし、いい結果にはならない。それよりも現場で仕事に携わっている人たち

の話に耳を傾け、それをもとに研究をするほうが自分に向いています」。

この研究スタイルの原点は、大学時代からの世界を駆け回った経験がベースになっています。藤原先生は、なんと47都道府県および世界30カ国を経巡ったという筋金入りの旅行好き。

「追大の学生さんに伝えたいのは、ぜひ学生のうちに旅行をしてほしいということ。親に借金してでも行けと言いたいくらい。世界に出ると、世の中には本当に多種多様な人間がいることが実感として理解できます。学生時代には時間という貴重な資源がある。授業とアルバイトに明け暮れるような時間の使い方は、もったいないと思いますね」。

大学教員の仕事に「毎日ワクワク」

2017年4月、地域創造学部の教員に着任。大学教員という新たな仕事の手応えについて藤原先生は「すごく楽しい」と目を輝かせます。

「国内外の都市で調査研究をして成果をまとめることは、すごくやりがいのある仕事です。また、自分が勉強して得た知見を学生に伝えることで、学生のスキルアップや職業に発展していく。こんな興味深いことはありません。今は毎日ワクワクしています」。

藤原先生の仕事の要所は、異なるモノ・コト同士を「つなぐ」ことだと言えるでしょう。海外と日本の自治体、学問と現場、それぞれを往還し、つなぐことで新しい価値が生まれる。そして、その成果は主役である住民、学生へとつながっていく循環を描きます。

スタッフの視点から

最初に藤原先生の研究分野を聞いた時は難しそうと思いましたが、自治体の国際戦略の実例や、国内外での経験・失敗談などとても面白い話ばかりでした。私ももっといろんな人や場所に出会い、知見を広げたいと感じました。(改井 孝太郎)

追大生にスポットライト

interview & text : 西井 亮 / 岩田 悠暉 / 吉原 久美 / 安原 杏奈 / 改井 孝太郎

追大の強者たちを直撃！

心技体を鍛え、武技だけではなく、人格形成のために努力を重ねる格闘技系クラブの皆さん。そんな追大の強者たちは、どんな人たちなのでしょう。5名の方々にインタビューをしました。なかには全国の頂点を目指し、鍛錬に励むクラブもあります。これを機に、ぜひ皆に応援しようではありませんか！



Bridgeアンケート

その場で結果がわかるアンケートに答えよう！

Check!



Q2 あなたが打ち込んでいることはなに？

Vol.5 【格闘系クラブ・サークル】

- ① その格闘技を始めたきっかけは何ですか？ ② クラブの特徴 ③ 今後の目標を教えてください！

空手部

西川 櫻子さん

経営学部 マーケティング学科 3年

- ① 小学校2年のとき道場見学に行ったのがきっかけです。1年間で黒帯を取り、その後大阪府、近畿、全国大会に出場するなど成績が残せたので、ずっと続けています。私の流派は松濤館(しょうとうかん)流。得意技は上段蹴りと打ち回しです！
- ② 上下関係はキチンとしていますが、練習後に皆で食事に行くなど、とても仲良し。楽しいと思えるクラブです。
- ③ 来年の春が大学最後の大会になります。最後の試合で賞を取り、有終の美を飾りたいと思います。

日本拳法部

中谷 晃輝さん

経済学部 経済学科 4年

- ① 大学で日本拳法を知り、友人に誘われたので入部しました。それまでの格闘技歴は、父の影響でやり出した空手と12歳から始めたキックボクシングです。
- ② 武道系ではありますが、上下関係が厳し過ぎず、雰囲気の良いチームになっています。今は1・2年生の若いメンバーが多く、活気があります。
- ③ 個人では、段位をもう一段上げて三段になることと龍峰杯優勝大会での入賞。チームでは、秋の大阪府民大会・団体戦で表彰状をもらうことです。

浦西 陽平さん

経営学部 経営学科 4年

- ① 中・高が野球部だったので、大学でも野球を続けようと思っていたところ、当時監督不在で部員4名の柔道部が目に残りました。「自ら行動し、起こせるイノベーションの幅が大きい」と思ったのです。
- ② 現在、部員数は20名に増えています。学年に関係なくメンバー全員が主体的に考え、行動できる団体をめざしています。
- ③ 卒業後には私が監督となり、この追大柔道部を100名規模の団体にしたいと思います。いずれは学内に柔道部専用の道場を設立するのが夢です。

柔道部

少林寺拳法部

稲田 恒之介さん

地域創造学部 地域創造学科 2年

- ① 小1から小4までやっていましたが、道場の閉鎖でいったん休止。高校で再開したら大阪1位と全国16位の成績を残せたので、大学でも続けることにしました。入学してからも昇段し、今では二段です。
- ② 技術だけでなく縦社会の厳しさや、OB、社会人への礼節も学びながら結果を求めるガチな部活です。目標は全国1位！
- ③ 個人の目標は悔いを残さないこと。主将を筆頭に先輩たちを見習って頑張ります。あとは文武両道の追求です。コレを言えるのは武道の特権でしょう(笑)。

剣道部

大西 剣嗣さん

経営学部 経営学科 4年

- ① 父親が剣道の先生なので、子どもの頃からよく練習に参加していました。父はどの先生よりも厳しく、運動神経の悪い僕は人一倍叱られていました。今、段位は三段です。
- ② 上下関係もなくフランクなクラブですが、練習は皆真剣です。ただ僕の場合、後輩のほうが強いことが多く、教えるだけでなく教えてもらうこともしばしばです(笑)。
- ③ 全日本学生剣道優勝大会への出場です。あとは、部活のことだけでなく、後輩の就活支援にも力を入れ、後輩たちがより部活に専念できる環境をつくりたいと思います。

01 SIMPLE

ピアス

リング状のピアスが好きで、このシルバー以外に、友達から誕生日プレゼントでもらったゴールドを持っています。ピアスをつけるときは、だいたいシンプルな服装に合わせますね。買うのはドンキやイオンなど。安い製品もいいのですが、ピアスの場合、衛生面も考えて1000円以上の少し高い目のものを買うようにしています。

経営学部 マーケティング学科 2年 大城 琢武さん

ピアス

CASUAL 02

入学前、母に買ってもらったピアスです。シンプルなデザインが好きで、普段着やかっこいい系の服に合わせてつけています。ピアスは4つ持っていて、母が勧めてくれた真珠の小さなピアスはスニーカーじゃないとき、友達からもらった三角形の揺れるピアスはキレイ系の服装時になどと、ファッションに応じて使い分けます。

心理学部 心理学科 2年 吉本 真樹さん

OIDAI STUDENTS FASHION

OTEMON COLLECTION VOL.7

| 特集 | ピアス・イヤリング |

interview & text : 吉原 久美 / 安原 杏奈 / 関谷 明知佳
photo : 吉原 久美

イヤリング

BRILLIANT 03

今日は靴を含めて上下で2色。こんなモノトーンな服装でも、大ぶりの赤なので華やかさを出せます。イヤリングのシャラシャラ音も気に入っています。色が入り混じらないように意識していて、アクセサリーはイヤリングとリングだけにするなど、つけるのは2つまで。イヤリングをするときは、ネックレスはしないんですよ。

経営学部 経営学科 2年 南井 眞生さん

ピアス

CRUC 04

誕生日のプレゼントとして姉に買ってもらいました。店名は忘れましたが、オシャレな雑貨屋さんでした。シックな着こなしをしたいときは、この黒色のピアス。明るい着こなしを意識するときは、シルバーのピアスをつけてワンポイントにします。髪の毛を赤色に染めたので、全体のカラーバランスにも気を配っています。

国際教養学部 国際教養学科 2年 遠藤 大雅さん

Bridgeアンケート

その場で結果がわかるアンケートに答えよう!

Q3 あなたの好きなピアス・イヤリングは?



Topics

追手井 | 第6期追手井は、魚・野菜&インスタ映え その名は「彩リエスカベッシュ丼」

経営学部・村上喜郁ゼミの追手井プロジェクトが第6期を迎えました。この取り組みは追大と大阪府中央卸売市場(茨木市)が事業連携し、地方一次産業の活性化や若者の魚・野菜離れについて、B級グルメの開発を通じて考える「食のプロジェクト」です。経営学の視点を活かし、学生自身が事業モデルの考案から商品企画、関係者との橋渡し役まで担っています。

第6期追手井は、基本的要件である「魚と野菜の啓蒙」に加えて「若者の食:脱胃袋依存型・自己表現としての食」がコンセプト。「若者の食」とは、昨今の食事が胃袋を満たすだけでなく、写真をSNSにアップする表現行為を伴うケースが増えていることを指します。そこでこのたびの追手井は、魚と野菜を摂取できると同時に、地中海料理の一種で彩り鮮やかな「エスカベッシュ」を使用。SNS

映えすること請け合いの「彩リエスカベッシュ丼」を開発しました。具の食材はサーモン、アボカド、パプリカなどの緑黄色野菜とオリーブオイル。魚・野菜・オリーブオイルの食べ合わせは、科学的にも健康食とされています。

「彩リエスカベッシュ丼」はすでにオープンキャンパスで配布され、またたく間に完売の人気ぶり。10月には学生を対象とした一般発売があります。この機会だけ。ぜひご賞味ください!



OTEMON NEWS AND TOPICS

[追手門ニュース&トピックス]

人権について考えよう

「違和感」

副学長 原田 章

1984年11月にシンガーソングライター「大江千里」が「十人十色」という曲を発表しました。この曲は大ヒットとまでは言えないものの、それなりにヒットしました。この曲をきっかけに、大江千里はバブル期を象徴するアーティストにその後なっていきます。

それから数年後、バブル期を懐かしむようなテレビ番組を見ていたとき、この曲の歌詞に出てくる「僕を選んだことを後悔させない」というフレーズが斬新だったと述べている評論家がありました。私はこのフレーズが新しいものだとは全く思っていなかったのですが、「女性に選んでもらうという感覚が自分にはなく、時代が変わったと感じたから」と解説が続きました。

私はこのフレーズを素直に受け入れていて新しい

発想とは思わなかったのですが、そこに違和感を感じる人がいたということが面白いと思いました。しかも、この評論家は自分が抱いた違和感の原因を「恋愛観の変化」で説明することで違和感を解消しています。

自分が抱いたり、他人から表明されたりすることのある「違和感」は、このように昇華されることもありまますが、多くはなんとなく心の中で処理されているように思います。でも、その中には無視してはいけない違和感もあります。放っておいたら、漠然とした不安感や忌避感に変わってしまうものも含まれています。その結果、小さな差別が生まれてくると思っています。

なぜなら、その違和感を解消する一番簡単な方法は、違和感の対象になっているものを否定し考えない

ようにすることだからです。これが進むと、考えないようにするために無視したり貶めたりといった行為をとることも起きます。でも、違和感を昇華させることで私たちは新しい視点を手に入れることもできます。そのためには、「正しい方法で考える」ことが必要です。私たちがさまざまな学問を学ぶ意義は、知識を増やすことはもちろん、学問の研究法から公正・公平な論理的思考方法を身につけることにもあります。

何かちょっとしたことに違和感を持つことはありませんか? その違和感がとても大事な問題に繋がっていることがあります。そのとき、私たちに公正・公平な論理的思考法があれば、違和感を昇華することで自分の成長に繋げることができます。違和感を無視せず、大事にして欲しいと私は思います。

Topics



Seize the Day!
ニュージーランド挑戦記ブログ

2018年3月に追手門学院大学社会学部を卒業し、現在2020年東京オリンピックを目指し本年4月からニュージーランド・オークランドの女子ラグビーチームに所属している磯貝美加紗さんのブログを大学ホームページ内に開設しています。



<http://www.otemon.ac.jp/ambassador/isogai.html>

Topics

「ゆるキャラ®グランプリ2018」に
「おうてもん」がエントリー

リベンジに燃える! 追手門学院大学の公式キャラクター「おうてもん」が今年も「ゆるキャラ®グランプリ2018」にエントリー。2017年度のランキングは288位でした。昨年度の結果を上回れるよう、1日1票ご協力お願いします! 投票終了は、11月9日(金)18時。一緒に追手門学院大学を盛り上げましょう!

ゆるキャラグランプリ
2018



エントリーNo.242
(大阪府)
おうてもん

ゆるキャラグランプリ おうてもん

検索



株式会社サイネックスと連携協定を締結

追手門学院大学は7月9日(月)に地方自治体のパートナーとして広報やプロモーション、地域経済活動をサポートする業界最大手企業である、株式会社サイネックスと地方創生に関する共同研究及び北摂地域のプロモーション活動の共同展開を目的とした連携協定を締結しました。



Sports

公門なつのさん(社会学部1年生)が
アメリカ大会で世界2位を獲得!



アメリカのカリフォルニア州ロサンゼルスで行われたアーティスティックスイミング®大会アメリカオープン(FINA AS World Series 2018 USA)ではナショナルBチームの日本代表選手として出場し、3個の銀メダルを獲得。公門さんのBチームは「テクニカル」「フリーコンビネーション」「ハイライト」の種目で世界2位を獲得し、中でも「テクニカル」では、今回3位に入賞したカナダのナショナルAチームの演技・構成を上回り、世界の強豪チームウクライナに次ぐ世界2位の堂々たる結果を残しました。

※旧名シンクロナイズスイミング

Sports

日本代表内定 チアダンスペア
世界大学選手権へ

追手門学院大学応援団チアリーダー部の高山あかり選手(国際教養学部4年生)と五嶋友加里選手(社会学部2年生)が今年10月にポーランドで初開催となる国際大学スポーツ連盟(FISU)主催の世界大学チアリーディング選手権に日本代表として出場します。FISU第1回世界大学チアリーディング選手権大会は、10月5日(金)と6日(土)の2日間の日程で、ポーランド・ウッチにて開催されます。



Event

卒業生のヤナギブソンも出演!
中高大一体でイベント開催!

9月23日(日)に毎日放送本社1階にて追手門学院創立130周年記念事業として『追手門学院 ちゃやまちキャンパス』を開講。毎日放送本社1階のステージやロビー、屋外スペースの3ヶ所を使い、追手門学院が設置する各学校が一体となり、様々な催しを行いました。ステージでは、追手門学院大学卒業生のヤナギブソンとお笑いコンビいなかのくるま(木佐凌一朗さんが追手門学院大学在学学生)が司会に立ち、新キャンパス紹介に始まり、ミニ模擬授業、追手門学院大手前中・高等学校のチアダンス部のチア演技披露が行われました。屋外スペースでは追手門学院高等学校の吹奏楽部による演奏、表現コミュニケーションコースの生徒によるダンスパフォーマンス、大学チアリーディング部やダブルダッチサークルの学生によるパフォーマンスが行われ、ロビーでは世界大会で優勝した追手門学院大手前中・高等学校ロボットサイエンス部による、プログラミング体験コーナーを展開しました。



Topics

川端康成文学館の展示パネルを
追大生が翻訳

茨木市立川端康成文学館内にある展示パネルの英語翻訳が、追手門学院大学地域創造学部2年生(2017年度時)の有志20名によって行われました。



Sports

臼田悠希さん(経営学部3年生)、
学生等MVP表彰授賞!

7月23日(月)、学生等MVP表彰授賞式が行われ、経営学部3年生臼田悠希さんが表彰されました。臼田さんは、4月21日(土)・22日(日)に行われた国際空手道連盟極真会館主催「第35回全日本ウェイト制大会」において、中量級で3位に入賞。この大会は、極真会館が主催するフルコンタクトの大会においては上位に位置する大会で、世界各国から選手が集います。ウェイトは4段階に分かれ、中量級は129人が出場、その中で見事3位という成績を収めました。



Event

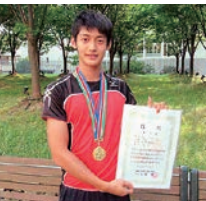
学友会『追風』主催「長月祭」を開催!

9月27日(木)~29日(土)の3日間、文化系クラブの発表を中心とした「長月祭(ながつきさい)」が開催されました。追大の様々な文化系クラブが、日ごろの活動の成果を展示・発表する新たな取り組みとして開催され、最終日は地域の方々にも開放し、「新キャンパス」をテーマにしたトークショーやゼミ発表、スタンプリリーなどの楽しいイベントに多くの来場者で賑わいました。来年は6月頃の開催を予定。

Sports

西日本インカレ男子100mで
立野大空さん(経営学部3年生)優勝

6月29日(金)~7月1日(日)に沖縄で行われた「第71回西日本学生陸上競技対抗選手権大会(西日本インカレ)」で、男子100mに出場した追手門学院大学経営学部3年生の立野大空さんが10.35秒を記録し、優勝しました。



Award

優秀発表論文賞
東 正訓(心理学部)

日本交通心理学会 第83回大会において、題目「ドライバーの制限速度遵守意図の規定因」の研究発表が優秀発表論文賞に輝きました。

授与元/日本交通心理学会(2018年6月)

岩田・渡邊賞
藤原 英賢(経営学部)

監査研究を奨励し、監査研究の向上発展に資するため、日本監査研究学会会員の優れた著書・論文に対して贈られるもので、今年度は、藤原准教授の著書「内部統制の有効性とコーポレート・ガバナンス」(2017年4月刊行/同文館出版株式会社)が選定されました。

授与元/日本監査研究学会(2018年8月)

BOOKS

追手門学院大学・
教員の著書(五十音順)

※教員の所属学部は2018年10月1日
時点のものです

ダークツーリズム
悲しみの記憶を巡る旅
井出明(客員教授)著
2018年7月/幻冬舎

ダークツーリズム拡張
一近代の再構築
井出明(客員教授)著
2018年7月/美術出版社

感情とはそもそも何なのか
現代科学で読み解く
感情のしくみと障害
乾敏郎(心理学部)著
2018年9月/ミネルヴァ書房

金融危機と
対峙する
最後の貸し手
中央銀行
本下智博著
2018年8月/勁草書房

移民が紡ぐ日本
交錯する文化のはざままで
小林善帆(地域創造学部)共著
2018年3月/文理閣

インド
ジェンダー研究ハンドブック
小松久恵(国際教養学部)共著
2018年3月/東京外国語大学出版会

デカルト
数学・自然学論集
武田裕紀(基礎教育機構)共著
2018年2月/法政大学出版局

悪い成長 悪い競争
一資本主義の核心と知足共生一
西岡健夫(名誉教授)著
2018年3月/静岡学術出版事業部

すぐそばの工芸
三谷龍二(元客員教授)著
2018年5月/講談社

大学・改革・笑い学
学長・坂井東洋男の大学活性論
坂井東洋男(追手門学院大学 元学長)
追手門学院大学 編集委員会編
2018年3月